



集う

同窓会と村人会

教育長 津野庄一郎

「よ一久しぶりだね。」「元気そうだな。」「今、何してるんだ。」この夏、5年遅れで「関谷中学校（昭和50年度卒）の還暦を祝う同窓会」が開かれ、60名余りが下関の割烹に集いました。場が和むと自然にあちこちで仲間の輪ができ、中学校時代の面影を探していました。当時のスライドショーを見たり、校歌を歌ったりして懐かしさの余韻に浸りました。たいしたもん蛇まつりの花火大会で打ち上げた6号玉は、一瞬ではありましたが、一生の思い出になりました。

晩秋の幹事会（言い出しっぺのT子は関東から車で）では、「5年後、70歳の年にまた集まろう」という話でまとまり、それまで元気でいようと言って別れました。

先日「第41回首都圏在住関川村人会」（東京新潟県人会2Fホール：台東区上野）に参加したと喜びのメールが、東京に住む叔父と叔母から届きました。加藤村長からの激励や久しぶりに集う仲間との再会は格別だったようです。ただ、役員の高齢化による準備等の負担や参加者の減少を気にかけている様子もありました。

2つの会に共通するのは、立場を超えた交流や新たな出会い、そして愛郷心ではないでしょうか。コロナ禍以降、ICTが発達し、直接対話しなくても様々な情報が得られるようになりました。しかし、人の思いや熱量までは伝わりません。関川村につながる人たちの横糸をしっかりと紡ぐこと（特に次代を担う若者の人間関係づくり）。こうした集いこそ関川村の真正の応援団であり、小さな村を盛り立てる大きな力になると思います。

村のホームページに、関川村創立60周年記念で制作した統合前の7つの小学校と2つの中学校の校歌をアップしました。いつでも、どこでも懐かしい校歌を聞くことができますのでご活用ください。